

開催
報告

平和のひろば

Vol.6

イージス・アショア配備計画の撤回を求める住民の会として、2018年から継続的に開催してきた集会「平和のひろば」の第6回目を、6月17日（土）に萩市総合福祉センター多目的ホールにて開催しました。「どこに行こうとしているのか、この国は～安保関連3文書からみえる進路～」と題し、山口大学経済学部教授・憲法学者の立山紘毅さんにご講演を頂き、市内外からの参加者が集いました。

「平和のひろば」は、市民の声を代弁し、平和を求め、平和を築くための活動です。今年も、市民の声を代弁し、平和を求め、平和を築くための活動を行います。

●「平和のひろば」は、市民の声を代弁し、平和を求め、平和を築くための活動です。今年も、市民の声を代弁し、平和を求め、平和を築くための活動を行います。

●「平和のひろば」は、市民の声を代弁し、平和を求め、平和を築くための活動です。今年も、市民の声を代弁し、平和を求め、平和を築くための活動を行います。

イージス・アショア配備計画で契約済みのレーダー（ロッキードマーティン社製）を艦上に搭載するイージス・システム搭載艦を建造することも明記している「安保関連3文書」が示す我が国の今後の防衛政策が、憲法を前提とした我が国の防衛の基本姿勢を大きく転換するような状況に向かっていることについて、様々な問題点を教示頂き学習する機会となりました。

住民の会は、これからも「平和のひろば」を随時実施します。

イージス・アショア配備計画の撤回を求める住民の会

ニュース いずみ No.24

2023. 10. 3 発行

イージス・アショア配備計画の撤回を求める住民の会 代表 森上雅昭
連絡先：090-1338-1841
Mail: hagi-morikami@coda.ocn.ne.jp
https://noaegis2.wixsite.com/noaegis



住民の会HP

2023年 2月 「報告・記録集Ⅲ」完成

住民の会の運動の歩みをまとめた「報告記録集Ⅲ」が完成しました。

主に、イージス・システム搭載艦整備計画への批判として製作しました。2020年以降の行動記録、防衛省説明や申し入れ文書をまとめた資料編、第5回平和のひろばの発言集、住民の会メンバーがまとめた論文編の4章構成となっています。

製作にあたり多大なるご支援をいただき、ありがとうございました。住民の皆様の情報共有の一助となれば幸いです。



佐賀空港オスプレイ配備 馬毛島FCLP 基地建設問題

オンラインで情報共有・連帯継続

佐賀空港へのオスプレイ配備・馬毛島FCLP 基地建設に向け拙速な住民説明や工事が強行されています。しかし、市有地売却に関する住民監査再請求や佐賀駐屯地建設工事差し止めの仮処分申し立てなど、地上イージス撤回に向けた運動を通じて情報共有・連帯をしてきた基地建設に反対する住民の戦いはその歩みを止めることはありません。

住民の会HPでも逐次オンラインでも情報の共有を続けます。

馬毛島 FCLP 基地 反対署名 国際キャンペーン



佐賀空港へのオスプレイ配備反対をする住民の会



イージス
システム
搭載艦

防衛省への申し入れ 本省との直接対話

イージス・アショア配備計画の停止（2020年6月）およびイージス・システム搭載艦配備計画公表（同年12月）がなされて以降、2021年8月から、萩市立ち会いによる防衛省への申し入れを再開、およそ3か月に一度のペースで、申し入れ、口頭回答（電話）、再申し入れのサイクルを継続してきました。前号（いずみ23号）以降、実施した申し入れの要点と回答を共有します。

なお、この申し入れについては、自治体の協力のもと成立している公式な住民と防衛省本省との直接対話の場であり、現在の我が国において稀有な場であります。携帯電話を介したやり取りには改善の余地はありますが、引き続きの継続した対応を本省に求めています。

■申し入れ要旨■

4月27日

イージス・システム搭載艦2隻が、日本海でBMD任務を行う海域候補地について説明を求める。

7月10日

「イージス・システム搭載艦の萩市沖海域での運用に係る住民説明会」の開催を求める。



防衛省・防衛大臣に対する申し入れの御案内

8月31日、防衛省は、「防衛力抜本的強化の進捗と予算一令和6年度概算要求の概要」を発表しました。その中で、2028年度就役を計画するイージス・システム搭載艦1隻目の建造費として3,900億円を計上しました。2隻目も同額とすると総額は約7,900億円となり、2箇所の配備で約4,700億円と言われていたイージス・アショアより3,200億円も高額になります。

防衛省は来年度予算の概算要求に過去最大の7兆7,000億円を計上しました。その象徴は、イージス・システム搭載艦の建造費です。同艦には、迎撃機能だけでなく攻撃機能（トマホーク等のミサイル）を搭載するとされており、まさに新たな予算の象徴的な装備品となります。

住民の会は、2018年6月から、通算35回の申し入れを重ねてきました。イージス・アショア配備計画の撤回に続き、イージス・システム搭載艦整備計画の撤回も求めています。皆さまのご賛同とご参加を心よりお願いいたします。

次回申し入れ予定

2023年10月26日 午前11時
（午前10時30分 萩市役所1階ロビー集合）
会 場 萩市役所2階大会議室
要 旨

イージス・システム搭載艦の萩市沖海域での運用に係る住民説明会の開催について等

NEWS

住民の会の歩みについて インタビューを受けました

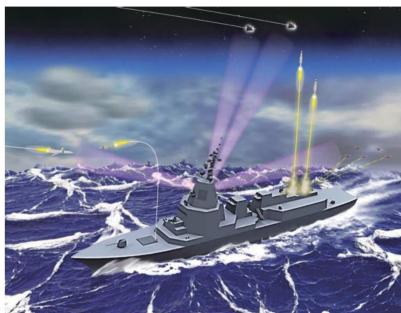


2023年8月21日、立教大学大学院21世紀社会デザイン研究科の伊藤淳子さん（阿武町出身）から住民の会代表・森上雅昭がインタビューを受けました。その要旨を報告します。

インタビュー①

Q：住民の会が活動を継続している狙いは何ですか？

A：2020年6月15日のイージス・アショア配備計画の撤回発表直後から、安倍首相（当時）は、急速に体調を悪化させ、8月28日には退陣表明をおこない、9月11日の『首相談話』で、**敵基地攻撃能力の保有とイージス・アショア代替案の検討**を指示しました。9月16日、菅政権発足・防衛大臣岸信夫となります。僅か3ヶ月後の12月18日に、**イージス・システム搭載艦整備計画が閣議決定**されました。



イージス・システム搭載艦想像図（防衛白書 2023）

緊迫した国の動きをみすえ、住民の会は、次のように対応を表明してきました。「イージス・アショア代替案で再び住民が苦しむことがないように、菅政権の動きを見据え、会を存続しておく考えです」（2020年9月26日）。「住民の会は、二つの理由で会を存



続しています。①国・防衛省による『配備計画の撤回に係る住民説明会』が未だに開催されていないこと。②『イージス・システム搭載艦を多胴船型にして2隻を秋田と山口・萩沖に配備する』との情報が出されてきていることです（2021年5月19日）。

住民の会は、住民説明会を開催しない岸信夫防衛大臣。「地上配備型ミサイル迎撃システム」というイージス・アショアとは正反対の「海上配備型敵基地攻撃ミサイルシステム」というイージス・システム搭載艦が登場してきた過程を、みすえてきました。2022年9月10日には、「国葬」に反対する平和のひろば緊急講演会を開催しました。防衛省への申し入れ活動は、陸上自衛隊むつみ演習場へのイージス・アショア配備計画撤回の勝利を固め、萩市沖合へのイージス・システム搭載艦配備を許さない活動です。



インタビュー②

Q：安保関連3文書、国防に関する思いをおきかせください。

A：住民の会は、2023年6月17日、安保関連3文書について第6回平和のひろばを開催しました。安保関連3文書のイデオログの一人が兼原信克氏（阿武町出身）です。森本敏氏（拓殖大学顧問）も萩市に来て講演しています。安保関連3文書は、先述するように、「防衛・迎撃ではなく攻撃・反撃を！」という単純な戦争論であり、その先の講和論の構想もありません。

国・防衛省は、イージス・アショアの轍を踏むなど、住民説明会を開かず、利益団体・自治体の協力で強引に工事を始めることを先決事項にしています。

住民の会は、個別訪問署名・学習会・防衛省への申し入れ・ポスティング行動・パレード等の継続で力を維持してきました。防衛省に対して、2018年から35回の申し入れを継続しています。安保関連3文書で「反撃（敵基地攻撃）」を打ち出したことに対し、新たな意味を持った申し入れになっています。



イージス・アショアからイージス・システム搭載艦へ

－ 政府の方針転換の経緯を時系列で再整理する －

■2017年12月

イージス・アショア配備閣議決定

（安倍首相 当時）

■2018年 6月

配備候補地正式通達 萩・秋田

（安倍首相 当時）

■2020年 6月15日

配備計画のプロセス停止および撤回

（河野大臣 当時）

同 年 9月11日

イージス・システム搭載艦について言及

“安倍談話” （安倍首相 当時）

同 年 12月18日

イージス・システム搭載艦2隻の整備計画を

閣議決定 （菅首相 当時）

■2022年12月16日

安保関連3文書改訂

イージス・システム搭載艦2隻およびイージス艦10隻態勢を防衛力整備計画に明記

■2023年 8月31日

イージス・システム搭載艦 概算要求

3900億円 1隻（2028年度配備）

※2隻目は2029年度予定

■同 年 9月13日

第2次岸田改造内閣発足 木原稔衆議院議員が防衛大臣に就任 （岸田首相）

※木原稔氏は、初めて国家安全保障戦略を策定した安倍政権下での防衛大臣政務官（2013年）であり、安保関連3文書改訂に自民党安全保障調査会（小野寺五典会長）幹事長として関った人物です。

「弾道ミサイル防衛の要は、
洋上から地上へ。
そしてまた洋上へ！？」